

No.

2023 年度 数 学 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

科目	探究数学Ⅱ	単位数	2	週時間数	2	年次・コース・組	3年・一般コース理系
使用教科書 副教材等	数研出版『リンク 数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B』						

① 学習の到達目標

- 演習活動を通じて、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Aおよび数学Bの体系的な理解を深める。
- 知識の習得と技能の深化を図り、課題とされる事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばす。
- これまで学んだことの有機的なつながりを知り、知識技能を積極的に活用し数学的な考察を通じて判断する態度を身につける。

② 評価の観点、方法

- 学習活動への取り組み、課題・提出物の状況をもとに、数学で表現できることについて積極的に活用して判断しようとする態度を評価します。
- 記述型式のレポートプリントの内容、学習内容の記録ノートの内容をもとに、学んだことを発展的に考えて、数学的な見方や考え方が身についているか、より深く考察しようとしているか評価します。
- 定期試験・課題テスト・JUMPテストの結果をもとに、学んだことを処理する仕方や事象を数学を用いて表現する技能が身についているか評価します。
- 定期試験・課題テストの結果をもとに、授業で扱ったことの基本概念・数式を用いての処理など体系的に理解し、知識を身につけているか評価します。

③ 担当者から

- 予習重視です。これまで身につけた知識を与えられた時間で自分で判断して解く。この演習の繰り返しで学んだことの定着を目指します。初めて見る問題をどのように処理するのか。多くの経験を積んで自在に数学を操れるようになります。
- まずは、基本事項の定着から。公式、教科書の例題は、頭に入れておきましょう。演習量が大事です。
- 時間をかけて試行錯誤しながら考えることが大事です。間違えることも大事な過程ですので、自分の手で、納得するまで問題を解いてください。

※ 前期反省

※ 年間反省

※ 次年度に向けて

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

月	単元名	教科書項目等	・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点	授業時数
4	演習 (数学Ⅰ・ A・Ⅱ・B分 野)	数研出版『リンク数学演習ⅠAⅡB』 数学Ⅰ/Ⅱ/A/B分野の基礎問題演習	分野典型問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。 ◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。 ◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。 ○ 解けなかった問題に対して解き直しを行い、知識の見直しをおこなう。	前期中間Ⅰまで 予定 10 10 実施 0
5		<前期中間試験Ⅰ>		前期中間Ⅱまで
6		<前期中間試験Ⅱ>		予定 8 18 実施 0
7・8				前期期末まで
9		<前期期末試験>		予定 12 30 実施 0
10	演習	大学入学共通テスト型の演習 (数学Ⅰ・Ⅱ・A・B)	分野融合問題を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。 ◎ 扱った典型問題の理解を通じて、類題が解けるようになる。 ◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。 ○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。	後期中間まで
11		<後期中間試験> 実践問題集	実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。 ◎ 計測して問題を解くことを通じて、共通テストで十分な点数をとれるための実力をつける。 ◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。 ○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。	予定 14 44 実施 0
12				
1		<後期期末試験> 個別学力試験対策演習	実践演習を解くことを通じて、これまで学んだことの有機的なつながりを知る。考えたこと、判断したことを数学的な処理での表現方法を知る。 ◎ 大学入学個別学力試験の過去問を解くことを通じて、難問に対応できるための実力をつける。 ◎ 実際に解いたことの記録と、友人・教員の解き方との比較でよりよい表現を身につける。 ○ 解き直しを行い、すべての公式・基礎問題に瞬時に反応できるようになろう。	年度末
2・3				予定 10 54 実施 0